

鋼構造及び合成構造設計・施工基準の
世界の動向と今後の展望に関するシンポジウム

平成11年10月22日

土木学会
鋼構造委員会

まえがき

近年、建設分野においても国際化(グローバル化)が加速されつつあり、十分に成熟した我が国建設技術の輸出、あるいはWTOに基づく海外企業の参入は、これから一層多くなるものと見られています。

一方、世界的な傾向として、上記のような産業の相互乗入れを容易にするように、世界的な基準の統一化を目指す動きも活発化しており、ISO(国際標準化機構)規格が急速に普及する状況にあります。我が国産業界が最近相ついでISO9000(品質保証)やISO14000(環境)の認証取得を図っているのは、その顕著な例であります。

構造物の設計・施工基準においても、国際化が産業活動と深くかかわるとの現状認識を前提として、設計基準や施工基準を早急に整備し、国際的な技術競争に勝ち残るための基盤を整備する必要があります。したがって、土木学会においても、官・産・学の各界と一体となって、国際規格・国際標準に関する動向の調査・情報の収集・必要な国内体制の整備等について早急に検討すべく、ISO対応特別委員会等の活動を始めています。

このような状況に鑑み、鋼構造委員会では、「鋼構造に関する国際規格調査小委員会」(委員長:依田照彦早稲田大学教授)を新設し、国際規格や国際標準の調査分析を行い、その成果を土木学会会員に還元するとともに、国際規格への対応が従来にも増して迅速かつ正確に行えるような体制を構築することにいたしました。さらに、小委員会活動を開始するにあたりまして、今回「鋼構造及び合成構造設計・施工基準の世界の動向と今後の展望に関するシンポジウム」を開催し、国際規格の現状と我が国の設計・施工基準の展望について議論することを企画いたしました。

鋼構造委員会で把握している情報は、現在の所まだ断片的なものもあり、必ずしも十分なものとは言えませんが、このシンポジウムを契機に国際規格の最新動向が明らかにされ、土木学会鋼構造委員会および土木鋼構造関係者の間で、我が国の今後の対応策について十分な検討がなされ、必要な国内体制・基盤の整備に向かう努力がなされることを切に希望しております。

土木学会鋼構造委員会
委員長 坂井藤一

登録	平成11年11月10日
番号	第 47257 号
社団法人	土木学会
附属	土木図書館

鋼構造及び合成構造設計・施工基準の世界の動向と今後の展望
に関するシンポジウム実行委員会

委員長 坂井藤一 (川崎重工業(株))

副委員長 西村宣男 (大阪大学)

委員 鈴木博之 (明星大学)

〃 野上邦栄 (東京都立大学)

〃 依田照彦 (早稲田大学)

目次

第1章	国際規格調査小委員会の発足	1
第2章	工業規格国際化の潮流　－溶接規格を例として－	7
第3章	ISO/CEN 規格体制への対応	13
第4章	性能設計の動向	24
第5章	鋼材分野のISO 対応	30
第6章	米国における設計法の動向	37
第7章	道路橋示方書の改訂	43
第8章	鉄道における規制緩和と技術基準の性能規定化への対応	49
第9章	港湾の施設の技術上の基準・同解説の改訂	57